

草刈りなど整備された陸上競技場維持を目指して (令和6年度秋期草刈り作業を振り返り)

今年度も、陸上部からの要請を受けた植樹会は、10月4日、小雨交じりとはいえ真夏日復活の中、70歳台超の植樹会会員が老骨に鞭打ってグラウンド整備に大汗した。私も陸上部 OB と植樹会作業メンバーの立場を併せ持ち、「少しでも気持ちが良いと恥ずかしくないグラウンド環境を」という気持ちから毎回作業に加わっている。陸上部 OB では、毎回ご参加される後藤哲也先輩（昭和44年卒）の他、日渡幹事長（昭和62年卒）も会社の仕事を調整してまで参加してくれた。

6月上旬にも一回草刈りをしたが、猛暑続きで草の繁茂力が異常に強く陸上競技場のみならずキャンパス全体が雑草ジャングルと化している。グラウンド周囲の草刈りはその量も半端なく、刈り終えた草を所定の捨て場に運び込む作業は時間の関係から終わらず持ち越しとなった。植樹会は他の作業日程が目白押しな為、残置された草の片付けは、大切なグラウンドの良さを日々享受している現役諸君に委ねて当日の作業を一先ず終えることとした。



「10月末に名古屋大学陸上部を我々のこのグラウンドに迎えて



定期戦を開催する主催側として、客人チームを快く迎えなければ！」という気持ちは作業した陸上部現役諸君も OB も共通のものだったと思っている。一部片付けは残ったものの、随分綺麗さっぱりとなり公認競技会開催には問題はないだろう。

会社の仕事を調整して作業に初参加してくれた日渡幹事長は、作業後に「次回は他の OBOG にも声を掛けてみようかな、と思いました。」と大変嬉しい感想を寄せて来てくれた。



最後に、作業の振り返りミーティングで、植樹会幹部から「月末の名古屋大学との試合で良い戦果が生まれることを期待する。走る、跳ぶ、投げる等でいい記録を目指すことは諸君にとって第一義だ。だが、同時に、グラウンド整備にも常日頃から気配り目配りをしてほしい。植樹会は多くの体育会の部とも草刈り作業をしており、自分達の部活の為の草刈りを学生主体でやる意識の平均値的なものは眼に焼き込まれている。今日の皆さんは平均値以下、そういう感想を抱いた。」「8レーン外側の白線に草が覆いかぶさっていても平気な皆さんを見て、とても残念な気持ちを禁じ得ない。」などと講評をいただいた。また、後藤先輩からは出身母体の『陸上部愛』から、「陸上部の学生諸君は流石にきびきびと作業に立ち向かい、他の部とは違うな、という評価を今後はいただけるように期待する」と。こうした先輩諸氏の温情指摘を今後に向けて活かしていただきたいと思います。

また、日渡幹事長の感想にあるように、ご都合が付く OBOG の皆さんが、今後、お一人でも多くのご参加の輪が広がっていくことを願いつつ、筆を置きます。

2024年10月7日

井田武雄（昭和51年卒）記